

投与プロトコール 1コース21日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~2 75歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
プレメディ	グラニセロン注バッグ 3mg/100mL デキサート注 6.6mg/2mL	1袋 1V	Day1,8	30分 点滴	
①	ゲムシタピン 1000mg/m² 5%ブドウ糖液	mg 100mL	Day1,8	30分 点滴	
フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1,8	全開	
<p><使用上の注意点></p> <p>【ゲムシタピン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆投与継続可否などの目安:白血球数が2000/mm³未満、または血小板数が7万/mm³で投与延期し、骨髄機能が回復後一段階減量(800mg/m²)で再開する。 ◆30分間で点滴静注。(海外の臨床試験で、点滴静注を60分以上かけて行くと、副作用が増強した例が報告されている。) ◆特徴的禁忌:胸部X線写真で明らかで、かつ臨床症状のある間質性肺炎または肺線維症のある患者、胸部への放射線治療を施行している患者。 ◆血管痛が現れることがあるのでその際は患部を温める。 ◆投与後発熱することがあるので、必要時は解熱剤を服用する。 ◆間質性肺炎が現れることがあるので、胸部X線検査などを定期的に行うとともに症状(空咳、発熱など)に注意する。 ◆溶解液を保存する場合は室温で保存し、24時間以内に使用する。 					